伊達市パブリック・コメント制度実施結果報告書

整理番号			
案件名	非核平和都市宣言		
公表日	平成24年4月26日		
募集期間	平成24年4月26日～5月16日		
担当部・課名	総務部総務課		
実施結果	提出方法	提出者数	意見数
	持参	3	3
	郵便		
	ファクシミリ		
	電子メール		

■提出された意見とそれに対する市の考え方

No.	項目等	提出された意見等の概要	市の考え方	計画等への対応
1	福島原発事故と放射能被害に関する記述について	2段落後半の福島原発事故と放射能被害についての記述は、甚大な被害を受けている伊達市としては弱いので独立した段階を設定すべきである。 ①放射能汚染による恐怖と不安に伴うふるさと離れ ②伊達市名産品の放射能汚染による農業の打撃 ③徹底した除染(子どもが元気に成長できる環境作り) ④脱原発、再生可能なエネルギーの導入宣言(伊達市の再生の方向性の訴え) 以上のことを検討し、市民の声を反映した、市民が誇れる格調高い宣言文にしてほしい。	「非核平和都市宣言」をするにあたっては、合併前の旧町の宣言を踏まえて、その目的はあくまでも「核兵器の廃絶と恒久平和の実現」を求めるものです。 福島原発事故の記述については、策定委員会でも議論を重ね、放射性物質による被害に直面しているわが市の現状としては、現時点で行う宣言文に、原発事故についても触れざるを得ないとの判断から、2段落に記載されたものであります。 市としましては、この宣言が核兵器の廃絶を趣旨とするものであることを鑑み、具体的な放射能汚染の現状や対策、国のエネルギー政策についての言及は差し控えたいと考えています。	
2	平和維持の実践行動及び、福島原発事故の記述について	①平和維持のために実践行動することを強調すべき ②福島原発事故の当事者としての恐怖や苦難を具体的に盛り込むべき 以上を宣言文で修正補足してほしい。		
3	原発事故によりもたらされた様々な事項の記述について	①高濃度の放射能に汚染されている事実 ②家庭崩壊と地域住民の絆の破壊 ③放射能汚染による出荷自粛に伴う生業への影響 ④放射能汚染により奪われた現実(収穫することの喜び、食文化) ⑤放射能汚染による恐怖と不安 以上のことを踏まえ、福島原発事故を通して「核と人類」は共存できないことが明らかになったことを強く主張する格調高い宣言文にしてほしい。		

※最終的に決定した計画等の案を添付してください。